

武蔵国分寺跡資料館だより

Musasi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

武蔵国分寺跡資料館
Musasi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091
[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp
[HPアドレス] http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/1733/009819.html

2010.1
創刊号



国分寺市の新たな文化財拠点施設

平成 21 年 10 月 18 日は、国分寺市に新たに 3 つの文化財拠点施設がオープンした記念すべき日となりました。

江戸時代、^{おわりとくがわけ たかば}尾張徳川家の鷹場であったことから「お鷹の道」として親しまれている道沿いに、市立歴史公園「^{おたかの道湧水園}おたかの道湧水園」が開園しました。園の入口には、^{ゆすいせん}幕末に造られた風情のある長屋門があり、園内は国分寺崖線下から湧き出た水が流れ、お鷹の道沿いの水路へ注いでいます。園内にあった既存建物は、主に内部を改修して展示施設「^{むさしこくぶんじあとしりょうかん}武蔵国分寺跡資料館」を開館しました。資料館の 2 階は国分寺市教育委員会ふるさと文化財課の事務所になっています。

お鷹の道の南にあった既存の建物は、改修して休憩や地理案内なども提供できる施設とし、まちの駅全国ネットワークに加わって、全国初の「^{しせき えき}史跡の駅（愛称：おたカフェ）」として、市民や市民団体との協働で運営しています。

● オープニングセレモニー

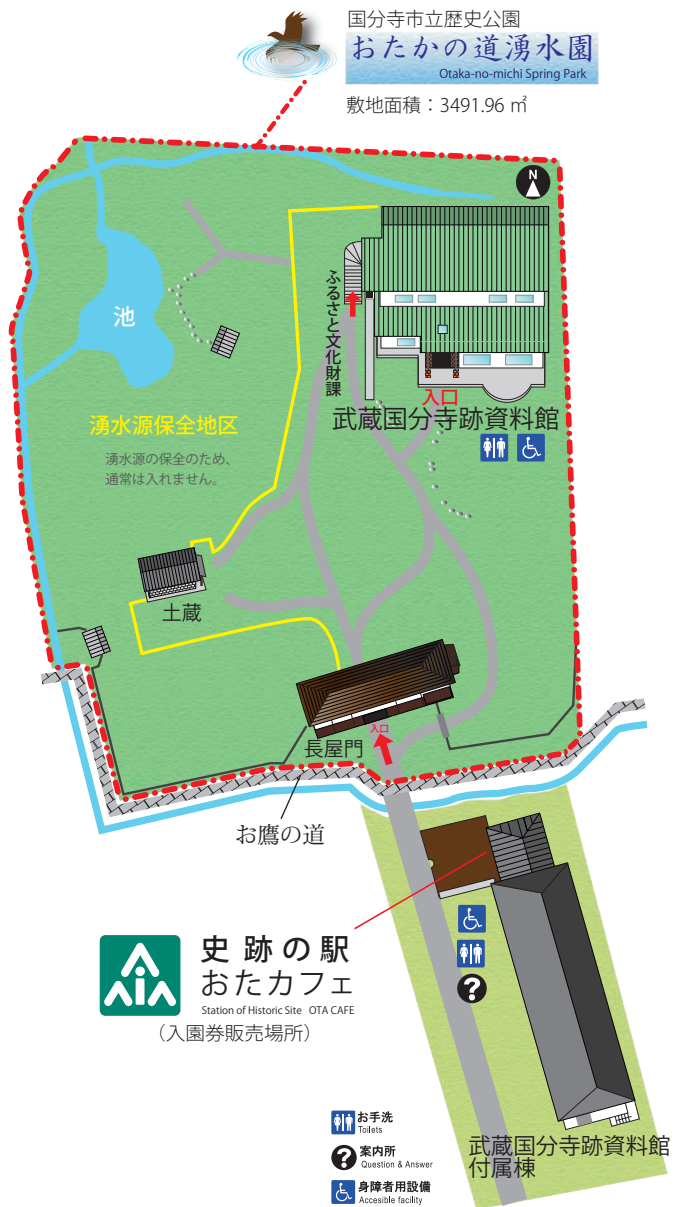
オープニングセレモニーには多くの方々にご参加いただき、初日の無料公開日には 907 人の市内外の方々に施設を見学していただきました。



オープニングセレモニー 星野市長の挨拶



オープニングセレモニー 参加風景



武蔵国分寺跡資料館のロゴマーク
見る 学ぶ 訪ねる

**武蔵国分寺跡
資料館**

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

資料館のロゴは武蔵国分寺の七重塔と鎧瓦・宇瓦を表現したものです。青と白のコントラストは、国分寺崖線下の湧水をイメージしています。

国分寺市文化財保存館閉館展示

「さよなら文化財保存館展」

を開催しました

武蔵国分寺跡資料館開館に伴って、これまで現国分寺の境内にあった国分寺市文化財保存館が閉館となりました。文化財保存館では、平成 21 (2009) 年 10 月 18 日 (日) から 11 月 8 日 (日) まで、これまでの保存館の歩みを振り返る「さよなら文化財保存館展」を開催しました。

● 文化財保存館ができた頃

国分寺市文化財保存館が誕生したのは、昭和 27 (1952) 年です。当時の国分寺町内から出土した品々を永久に保存し、後世に伝える目的で建てられました。終戦後、新しい歴史観により、一般市民の歴史・文化財への関心が高まり、市民参加による登呂遺跡 (静岡県) の発掘など各地で発掘調査の成果もあがりました。

国分寺市文化財保存館が誕生した昭和 27 年はこうした考古学のブーム (決して浮ついたものではなく、歴史を科学的に解明するという意欲) の真最中でした。

国分寺の住職であった故星野亮勝氏は昭和 20 年恋ヶ窪 (西恋ヶ窪 3・4 丁目) でローム層中に石器を見つけました。その後、国立在住の考古学者甲野勇氏と出会い、このローム層中から採取した石器の詳細な調査を約束しましたが、その機会は訪れず日本における旧石器文化の発見者にはなれませんでした。甲野勇氏らと国分寺町内で発掘調査を行い多くの実績を残しています。

文化財保存館の収蔵品は星野亮勝氏の収集品だけでなく、寄贈品からも成り立っているのは人々の考古学への熱意の表れです。

また星野亮勝氏は国分寺の境内に万葉植物園を作りました。国分寺を訪れる子供たちに国分寺建立と同時期に編さんされた万葉集を通じて、その時代の貴族や庶民の生活を理解してもらうためです。



保存館を見学される三笠宮殿下 (昭和 27 年)

時が経ち国分寺市文化財保存館は閉館となりますが、星野亮勝氏や甲野勇氏らの考古遺物を通して歴史理解を深めるという意図は、文化財保存館の収蔵品を隣接する武蔵国分寺跡資料館で展示することで引き継がれます。

(ふるさと文化財課 太田和子)



文化財保存館外観 (昭和 27 年頃)

文化財保存館は歴史を身近に親しく学べる施設として国分寺町観光協会が創設しました。



保存館内 (昭和 33 年頃)

展示ケース内には国分寺市内出土の資料が並んでいます。



保存館内 (平成 14 年)

保存館の資料は文化財として貴重なものであるため、昭和 39 年に一括して市重宝に指定されました。左手の模型は平成元年に製作された 1/200 スケールの武蔵国分寺推定復元模型です。



(上) 平成 21 年 11 月 8 日に開催された閉館セレモニーでの解説の様子



(左) 参加者 (文化財保存館入口にて)

住田古瓦コレクションの世界 ～瓦に魅せられて～



ごあいさつ

海事史・法制史学者として知られる故住田正一氏（1893～1968）は、呉造船所社長・会長や東京都副知事などの大役を歴任される一方で、古瓦研究者としても活躍されました。特に国分寺瓦の研究を生涯のテーマとされ、各地の国分寺跡を東北地方から九州地方まで精力的に踏査し、全国50余国の国分寺瓦を収集されました。全国の国分寺をほぼ網羅した古瓦資料は他に類例が無く、きわめて学術性の高い資料です。平成17年4月に、ご子息の住田正二氏（現 J R 東日本相談役）が理事長を務める財団法人交通研究協会より、史跡武蔵国分寺跡が所在する国分寺市へ、計画中の（仮称）郷土博物館における学術活用にと寄託されました。

直後の平成17年10月8日に、保管施設の火災によりその大半が被害を受けてしまいましたが、市では緊急対策本部を設置し、復旧処理を進めました。

的確な保管施設の整備については、（仮称）郷土博物館構想の具体化を待つ必要がありますが、主として財政事情により、当分の間、実現することは困難です。そこで、緊急的措置として史跡追加指定区域内にある既存建物を買収し、資料館・収蔵庫として整備を進め、このほど武蔵国分寺跡資料館として開館することとなりました。

被災を受けた出土品の修復については、専門家の指導により有効な方法が得られ、平成19年度から5カ年計画で着手しました。このうち、住田古瓦コレクションの修復は、平成20年度におおむね終了しました。

開館記念特別展示として、修復の報告を兼ねて、修復を終えた資料を含めたコレクションを展示公開することとなりました。

住田氏が情熱を注いだ古瓦の美しさと魅力を感じていただければ幸いです。



住田正一編『国分寺古瓦拓本集』
昭和9年



やまと ほうりゅうじ
大和国 法隆寺
八葉複弁蓮花文鑑瓦
はちようふくべんれんげもんあふみかわら



いずもこくぶんじ
出雲国分寺
七葉複弁蓮花文鑑瓦



いずみ おおのじ
和泉国 大野寺
男瓦「□称主人気麻呂」ヘラ書き
おがわら



展示風景

● 住田古瓦コレクションの魅力

すみだしょういち こがわら
住田正一氏はなぜ古瓦を集めたのだろうか。はじめてコレクションを前にした時、ふとそんな疑問が浮かんでくることでしょう。

今回の展示は、瓦という資料の学術的価値のみならず、住田正一氏が情熱を注いだ瓦の魅力についても紹介しています。

住田氏が考古学への興味を持ったのは、小学校4年生の時でした。その後、高等学校で友人と瓦の採集に出かけるようになり、すっかり古瓦に魅かれていきます。特に飛鳥・白鳳期瓦の文様の芸術的な美しさを美術品と表現し、古の芸術文化に思いを馳せていたのでした。また、住田氏は瓦に書かれた文字（国名・郡名・人名など）にも興味を持ち、当時の書風を表したものとして関心を寄せていました。これらの瓦に対する情熱は、学術研究にまで至り、大学在学中には『考古学雑誌』で武蔵国分寺の瓦などを紹介しています。

瓦は、建物全体からみると、屋根に葺かれてるだけのいわば脇役です。しかし、建物が残っていない今では、当時の文化や思想を知る歴史の証言者として私たちに語りかけてくるようです。

展示は瓦の魅力について、住田氏の言葉も引用してご案内しています。瓦の美を感じて、住田氏が古瓦を集めた理由を探してみたいはいかがでしょうか。

（学芸員 増井有真）

● 展示構成

古瓦との出会い／瓦の美／文字瓦の世界／全国の国分寺を訪ねて

展示資料：約160点

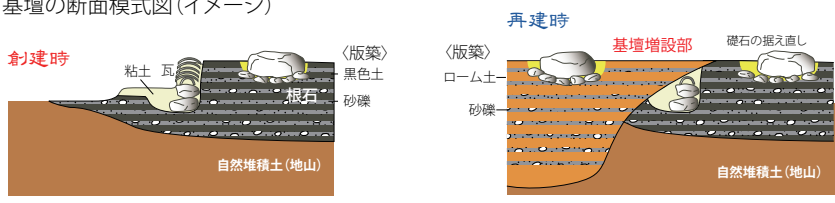


講堂は、^{こうどう} 經典の講義などが行われる建物です。これまでの調査によって^{きょうてん} 創建と^{きやうてん} 再建の2回建てられていたことがわかっていました。創建期の規模は、正面^{けん} 五間(28.5m)、奥行^{けん} 四間(16.6m)で、南北に^{ひさし} 庇のある^{にめん} 二面^{にめん} 庇建物(切妻)と考えられています。再建期には、金堂とほぼ同じ規模の正面^{けん} 七間(36.2m)、奥行^{けん} 四間(16.6m)の規模に増築されました。

今回の調査は昭和30年代に発掘した部分を再び確認して、^{しせきせいび} 史跡整備に向け新たな情報を得ようとしたものです。特に、再建期に建物が拡張された際に埋められてしまっていた部分が調査によってが再確認され、創建期の^{きだんがいそう} 基壇外装(基壇の縁)が河原石の上に瓦を重ねて飾っている状況が明らかになりました。

(平成21年度の調査より)

基壇の断面模式図(イメージ)



版築って何だろう?

建築物の^{ついでい} 基壇・築地盤などを構築する際に砂利や粘土・土・砂などを交互に厚さ数cm〜15cmで突き固めたものです。版築によって地盤を強固なものにして、建物の屋根に^{きだんがいそう} 暮される重い瓦を支えられるようになっています。

INFORMATION

発掘現場見学会を開催しました

去る2009年12月23日に史跡武蔵国分寺跡の講堂の発掘現場見学会を開催しました。午前と午後の部を合わせて292名の方々に見学いただきました。今回の調査では再建期の基壇外装(瓦積基壇)の状況が明らかになりました。(調査内容は次号で紹介します)



来館者数

2009年10月18日～12月末

来館者数累計 5635名

月	来館者数	開館日数
10	1778 (907)	12 (1)
11	2864 (943)	25 (2)
12	993	24
計	5635 (1850)	61 (3)

ご来館ありがとうございました

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数
○来館者数()内は無料公開日の入園者数
○開館日数()内は無料公開日の日数

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



- 開館時間
午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)
- 休館日
毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
臨時休館することがあります。
- 入園料
資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
一般……………100円(年間パスポート1000円)
中学生以下……………無料
- 【入園料の減免規定があります】
- (1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき(事前に減免申請書の提出が必要です。)
- (2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき(発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。)
- (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき(事前に減免申請書の提出が必要です。)

- 交通のご案内
- 【電車】○JR国分寺駅下車/徒歩約20分 ○JR西国分寺駅下車/徒歩約15分
- 【バス】○国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分
○国分寺駅南口より「京王バス」系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

作成中

ホームページQRコード